

天声人語

多数派が当たり前と思ってい
ることが、少数者には厚い壁と
なつて立ちふさがる。耳が聞こ
えず、うまく話すこともできな
い斉藤里恵さん(31)がぶつかっ
たのも、その壁だ。そして今、
壁に風穴をあけた▼6年前に出した自伝
的な著書『筆談ホステス』で知られる。
この4月、東京都北区議選に立候補し、
今の選挙が言語や聴覚に障害のある人を
「排除している」と感じたという。確か
に選挙戦につきものの名前の連呼一つと
つても、「音」を発し、それを聞くこと
が前提だ▼トップ当選し、きのう初の本
会議に臨んだ。区議会は全国初という新
システムを用意して新人を迎えた。区長
や同僚議員の発言が直ちに文字に変換さ
れ、手元のIT端末に表示される仕組み
である。斉藤さんは私有パソコンに文字
を打ち込み、音声に変換して自分の発言
とする▼議場が聴覚障害者に開かれたこ
とを喜びたい。「欠点は才能である」。
斉藤さんは人にそう言われたことがある
そうだ。ハンディキャップを強みに転じ
て、バリアフリー社会の実現に鋭意取り
組んでほしい▼少数者が声を上げ、当た
り前の壁を突き崩す。全国市議会議長会
はきのう、女性議員が出産を理由に議会
を欠席できるようにしよう、各議会に
促すことを決めた。ようやくとはいえ一
歩前進だ。同性愛など性的少数者も声を
高く上げつつある▼来歴から価値観から
人は一人ひとりが違う。違いを理由に
排除せず、互いの違いを生かしあう。
多様性を尊ぶことで社会は強くなる。

2015・5・27